

# こども通信

**塚田こども医院**  
 小児科・アレルギー科  
 漢方内科  
 .....  
 上越市栄町 2-2-25  
 TEL 025-544-7777(代)  
 025-544-7779(保育室)  
 FAX 025-544-8456  
 .....  
 各種ネット予約  
[www.0255447777.com/i](http://www.0255447777.com/i)  
 ホームページ  
[www.kodomo-iin.com](http://www.kodomo-iin.com)

「このころ急に秋が深まってきました。気温が下がり、暖房も必要に。今冬は石油製品の価格が高くなるという、寒々とした話もありますが、冬を迎える準備を進めてください。」

\* \* \*



「このことガフリと変えるのは無理です。そして、これまでの市政を全部否定することはありません。良かったところは評価し、さらに良くなるようにしていく。悪かったところがあれば、何がどう悪かったのかをはっきりさせ、それを改善して

いく。そんな積み重ねを絶えず行っていくことが基本です。今の日本は少子高齢化社会が恐ろしいほどの勢いで進んでいます。当市もその例外ではありません。先月号に書きましたが、「この15年

日本の派遣労働という形態は世界でも突出しています。日本の伝統的な「終身雇用」は問題とされてきましたが、それは経営する側からの意見。より安い労働力を求め、いつでも首を切りやすい状態を作り出してきた責任は大きいです。

号に書きましたが、この15年ほどで出生数が4割近く減少。ショッキングな数字です。その傾向はさらに進みそうです。子どもを生み育てる若い世代の収入が少ないのが、少子化の根本原因だと考えています。産業も必要ですし、安定した雇用環境も必要です。

## 感染症情報

少子化問題は日本全体の問題ですし、国の政治が変わらないと根本的な解決には至らないでしょう。でも、そのことに早く気づき、きちんと対処することのできた自治体は生き残っていきけるのではないかな。

若年層の貧困を解消する！ そんな強い危機意識を持って市政に望むことが新しい市長に求められます。どうぞ、よろしく！

現在、当地では目立った感染症の流行はおきていません。昨年からずっと感染症が下火の中で、夏場にRSウイルス感染症とヘルパンギーナが大きな流行になりましたが、秋に入ってそれらも終息しました。

昨シーズンはインフルエンザの発生もなく、感染症対策を確実に行うことで、子どもたちの感染症流行を抑制することが分かりました。一方で、流行しないということは免疫を持たない子どもたちが増えることで、次に流行した時には大きな規模になりがちです。長期的な視点では、流行しないことが必ずしも良いこととは言えないようです。

発生数は多くないのですが、**感染性胃腸炎、溶連菌感染症、アデノウイルス性咽頭炎**などが少しずつ発生があります。

先月中旬から急に気温が下がり、感冒症状のお子さんが増えています。体調管理に注意し、暖かくしてお過ごしください。

**新型コロナウイルス感染症**の第5波は下火になり、収束に近い状態にまでなっています。ようやく普通生活がおくれそうです。しかし、今後の動向は分かりません。世界を見ると大流行になっている国もありますし、今後、新しい変異株が出現し、それが世界を席巻することもあるかもしれません。ワクチンの効果も次第に落ちてくると言われています。

引き続き、気を緩めることなく、感染予防に務めてください。

## 今月の予定

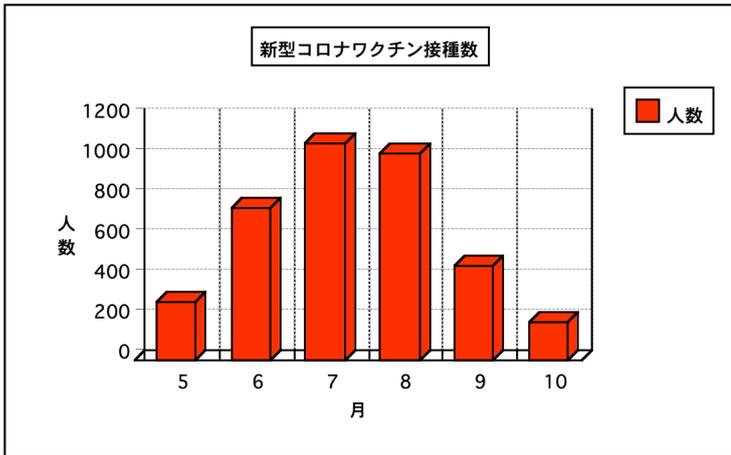
- 院長・副院長出席
- 上越市夜間診療所勤務 17日
- 上越有線放送 「健康ライフ」16日
- FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」  
毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)
- 感染症情報(毎週)  
FM上越: 木曜午後1:35頃～  
上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)  
医院ホームページ内

## 新型コロナウイルス

## ワクチンは効果あり

新型コロナウイルス対策として、最強の武器はワクチンだとも言われています（個人防衛を疎かにしていいということではありません）。

新しく設計された新型コロナウイルスワクチンは、日本では春から接種が始まりました。当初は世界から遅れての開始でしたが、その後の進捗状況は凄まじく、世界でもトップクラスの接種率になりました。



## ●ワクチンの効果

ワクチン接種により、コロナにかかりづらくなり、重症化を相当確実に予防することができます。

日本でもワクチン接種が進み、当初の高齢者の入院や死亡例は激減。最近の入院例はワクチン接種を受けていない若年層が大半になっています。多くの高齢者の命がワクチンで救われたという結果です。

変異株の出現もありましたが、ワクチンは有効でした。日本の第5波がほぼ収束したのは、多くの要因がありますが、やはり予防接種の普及が大きく影響したと思います。

## ●当院の取り組み

ワクチン接種を強力に推し進めるという政府の方針があり、当院もそのために個別接種の体制を作るように努力しました。

まずは高齢者の接種から。あまり慣れない接種（笑）に戸惑いながら、専用の会場を作り、専門外来として始めてみました。

その後は一般成人へ。接種数は次

第に増え、6月はのべ1078回。多い日は150人ほどでした。

ファイザー社製ワクチンを使用しました。保管、溶解、注射器詰めなどの段階も細心の注意が必要なワクチン。接種に際しても「筋肉注射」に慣れていないので（接種する方も、受ける方も）それなりの大変さもありました。

ワクチンを無駄にはいけないという方針があり、これにも気を使いました。当初は5人単位、途中からは6人単位で予約を取りましたが、キャンセルが出ると急ぎよ接種希望者を募ったり、市の集団接種会場に余ったワクチンを運んだり、毎日自転車操作のようでした。

## ●突然のブレーキ

個別接種もどんどんやってほしいと、国からも大号令がかかっていましたが、7月に入り急に「ワクチン供給減」。新規の予約受付を中止するように指示が入りました。これには唖然。まるで2階にあげて階段ははずすようなもの。

12〜15歳の子どもは個別接種のみ

での実施なので、夏休み中に完了するように体制を作っていたのですが、それも中途半端になりました。

当市では集団接種をメインにし、その日時を指定するという方針をとったために、多くの自治体でおきた「予約すら取りづらい」という混乱はおきませんでした。

しかし、個別接種の現場は国の方針変更（というより行き当たりばつたり！）に振り回され、やる気を削がれるような状況でした。文句も言いたくなりました（苦笑）。

## ●今後のワクチン接種

日本でも3回の接種を行うことになりました。2回目から8か月が経つてからなので、来年中には実施されるでしょう。

さらに、5歳から11歳までの子どもたちへの接種も実施されることになりそうです。接種量を少なくしますが、効果も十分にあり、子どもたちの中での感染予防に期待が持てそうです。

必要なことをしっかりやる。コロナ予防接種でも心がけていきます。